

「学力の向上」と「希望校合格」に欠かせないことは

開倫塾

塾長 林 明夫

この「開倫塾塾長通信」は、開倫塾の塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、教職員の皆様に、毎月の「開倫塾ニュース」巻頭言ではスペースの都合上お伝えできなかったことを、お読みになりやすいように QandA の形で毎月書かせていただいているものです。今までの内容は、「開倫塾ニュース」の内容とともに「開倫塾のホームページ、林明夫のコーナー」で御覧いただけます。

Q：まずは、自己紹介とごあいさつをどうぞ。

A：(林明夫：以下省略)開倫塾の創始者であり、全体の責任者である塾長の林明夫です。どうぞよろしくお願い致します。

Q：この塾長通信のねらいは何ですか。

A：この塾長通信は、「開倫塾ニュース」とともに毎月 1 回皆様のお手元にご送付させて頂いているものです。

開倫塾ニュースは、開倫塾の教育目標である「自己学習能力の育成」について、学年ごとにどのような取り組みをすればよいのかを中心に関連した記事を掲載させて頂いております。

私も毎月、巻頭言にどうしたら「学力向上」と「希望校合格」が果たせるか、私の考えを書かせて頂いております。しかし、どうしてもページ数の制約があるため、十分に意が尽くせません。そこで、巻頭言を補い、また、私が日頃考えていることで皆様のお役に立てるかもしれないと考えた内容を取りまとめてお送りするのが、この塾長通信です。

少しずつではありますが、また、拙(つたな)いものではありませんが、お読み頂く皆様にとって少しでもお役に立てればと思いお送り致します。長い内容になることが多いので、是非、色鉛筆やラインマーカーなどを御用意頂き、参考になるかもしれないと思われる箇所にアンダーラインをお引きになりながらお読み下されば幸いです。

Q：成績を向上させるコツ、希望校に合格を果たすコツというものはありますか。

A：私は、開倫塾を創業するまでの 10 年間、慶應義塾大学法学部法律学科と慶應義塾大学司法研究室に在籍して司法試験を目指しながら、学習塾や予備校で講師をし、また、家庭教師をしていました。開倫塾を創業してからも 29 年がたちますので、どのような勉強、取り組みをすれば成績が向上するのか、希望校に合格を果たせるのかははっきり言えます。

(1) 定評のある本をじっくり読み、深く考えをめぐらす児童・生徒で成績のよくない人はいません。

ですから、学力向上の第1として「読書」を皆様にお勧め致します。

学校の各科目の教科書に載っているような人物の書いた本を、腰を落ち着けてじっくり読むこと。熟慮・熟考しながら読み、考えること。自分を振り返ること。これが学力向上のコツ、近道と確信します。

なかでも自叙伝(伝記)を読むことは、小学生・中学生・高校生を問わず素晴らしい読書と言えます。人の一生を描いた本を、一気に何冊かお読みになることをお勧め致します。

OECD(経済国際協力機構)の調査・研究によれば、世界各国を調べてみると、一般にお金持ちの家庭は学校に行くことができ、また本が買えるので読書量が多いため学力が高い。貧困な家庭ではあまり学校に行かせることができず、また本を買うことができずに読書量が少ないため学力が低い。しかし、お金持ちの家庭の子どもでも、本を読む量が少なければ学力は低く、貧困な家庭の子どもでも本を読む量が多ければ学力は高い。学力が高い低い、読書の絶対量で決まると言われています。

フィンランドが、OECDのPISA(15歳時の標準学力国際調査)の結果、2003年に続き2006年度も世界一学力の高い国として評価されたことの1つの理由は、フィンランドの子どもたちは小さい頃から高校生になっても実によく本を読むからだと言われています。街中いたるところに大きな図書館、小さな図書館があり、子どもたちは図書館から本を借りて、実に熱心によく本を読んでいるようです。「ムーミン」を書いたトーベ・ヤンセンさんのような素晴らしい作家に恵まれたからかもしれません。学校と家庭、地域が一体となって子どもたちの読書環境の整備に力を注いでいる姿は、我々も見習わなければならないと、近年2度ほど、学力向上に関する国際会議でフィンランドを訪問して痛感致しました。

保護者の皆様は、学校や地域の図書館を大いに利用するようお子様を教育して下さい。お子様に何かプレゼントをなさるときは是非、時々はこれぞという本か図書券をプレゼントしてあげて頂きたい、僭越(せんえつ)とは存じますがお願い申し上げます。学力は読書の量で決まる。このような考えもあることを、是非御理解下さい。「読書」は大切な「家庭教育」と私は考えます。

- (2) 読書と同時に、新聞を毎日、毎日丹念に読み考える人で成績のよくない人を私は知りません。新聞は、社会の watch dog(ウォッチ・ドッグ 番犬)。社会の問題点を厳しく糾弾し、よりよい社会を目指すことを「使命(mission, ミッション)」としています。このような「使命」を持つ新聞を毎日丹念に読んで、日本や社会の出来事を深く考えるようになると、「批判的思考能力(critical thinking, クリティカル・シンキングをする能力)」、つまり、ものごとを自分の力で考える力、「判断力」が少しずつ身に付いてきます。

入学試験では、全科目とも非常に多くの文字を短時間のうちに読み、その内容を「理解」した上で、正しい答えを自分の力で導かねばなりません。大量の文字を短時間で理解する訓練として、新聞は非常に有益です。

また、作文や論文式の試験では、現代的な課題やテーマについて試験官が納得する理由を示しながら、自分の考えを展開することを求められることが大半です。

面接試験でも、最近話題になっているテーマについて、試験官が納得する意見を求められます。新聞を読んで考える力があること、とりわけ批判的思考能力があることは、入学試験の筆記試験だけでなく、作文や論文試験、面接試験でも非常に役立ちます。

少し早いかもしれませんが、企業や官公庁の採用試験にも論文試験、面接試験があります。その際、試験官が納得する内容を自分のことばで表現するのに、新聞ほど役に立つものはありません。

開倫塾では、「小学生は 20 分以上、中学生は 40 分以上、高校生は 60 分以上新聞を毎日読んで考えよう」と塾生の皆様にお勧めしています。10 月の新聞週間、11 月の NIE(新聞を教育へ)運動週間を活用して、開倫塾でも塾生の皆様にまずは新聞に親しんで頂けるような取り組みを展開する予定です。

そこで、保護者の皆様をお願いしたいことがあります。御家庭で皆様がお読みになった「昨日の新聞」を、お子様にプレゼントしてあげて頂けないでしょうか。何日か前の新聞であっても、新聞は読めば必ず役に立ちます。

興味のある、また、役に立ちそうな新聞記事をお子様には是非読むように教えて頂きますと、素晴らしい「家庭教育」になります。よろしく願い申し上げます。

Q:「読書」と「新聞」ですね。他に、成績を上げ、希望校に合格するコツはありますか。

A: はい、あります。「勉強の仕方を身に付けていること」です。具体的には次のような内容です。

予習の仕方、授業の受け方、一度勉強したことをどのように身に付けたらよいか、ノートの取り方、ノートの整理の仕方、テストの準備の仕方、何から何まで一人で勉強する方法、情報の集め方、整理の仕方、活用の仕方、よい先生(師匠)のさがし方、よい学校(教育機関)のさがし方、励まし合う仲間の作り方、一度身に付けた勉強を、もっと深めるための勉強の仕方。この中には、勉強時間の確保の仕方、勉強の計画の立て方(小さな目標の作り方)も入ると考えます。

ただ、最も大切なことは、何のために勉強するのかです。「勉強する目的」をどう考えるのか。大きな「目的」を達成するために計画を立て、1つ1つの小さな「目標」をクリアしていくこと。状況に応じて、小さな「目標」はどんどん変えていくことも必要です。

Q: 具体的にはどうしたらよいでしょうか。

A: あまり難しく考えずに、まずは「勉強の仕方」について興味を持ってもらいたいと思います。少しずつ私の考えをご説明しますので、どうかゆっくりお読み下さいね。

例えば、私はこのように考えます。の「予習」は何のためにするのかといえば、「わからないところをはっきりさせて授業に臨むためにするもの」と私は考えます。

こう考えれば、明日の授業のために予習する方法がはっきりしてきます。

(ア)例えば、英語でしたら、明日授業があるところの本文をまずは声を出して何回か読んでみる。声を出して読んでいて、よく読めないところがあったら小さな印を付けておく。次に、CD(ED)を用い、ポーズを入れながら声を出して読んでみる。スラスラ読めるようになるまで読んでみる。声を出して何回か読みながら、どんなことが書いてあるか考えてみる。ちょっとわかりにくい単語や文章があったら小さな印を付けておく。

少なくともここまでは、英語の予習としてやっておいたほうがよいでしょう。ただ、普通はこのあと、辞書を用いて単語調べをし、発音記号を含めて意味をノートやカードにメモしておく。時間があったら、書き取り練習まで済ませておくことが予習と私は考えます。

(イ)数学でしたら、明日の授業中に勉強する教科書、テキスト、問題集の範囲をよく読んで、内容を「理解」した上で、大事なところはノートにメモをし、ノートに問題文を書き写して、問題はすべてノートに解く。計算はイコールを縦に揃えながら、途中の経過も必ず書いていく。説明を読み、また問題を解いていき、よくわからないところに小さな印を付けて授業に臨む。

(ウ)国語は、明日学習する教科書、テキスト、問題集などを、まずは1回ゆっくり読む。できれば大きな声を出して何回か音読する。読みながら、だいたいどのようなことが書いてあるか、筆者は何を言いたいのかを考える。音読していて、意味のよくわからない語句や意味のよくわからないところに小さな印を付けておく。「よくわからないところをはっきりさせてから授業に臨むのが予習の意味」ですから、ここまでは是非、予習としてやってみましょう。そしてもしできれば、意味のわからない語句を辞書で調べ、ノートに記録しておく。時間があったら、書き取り練習まで済ませておくのが予習と私は考えます。

(エ)このように、勉強の1つである「予習」はどのようにしたらよいのか、その仕方を自分なりに身に付けておくことが、学力向上と希望校合格のコツと言えます。

(オ) の「授業の受け方」以下は、開倫塾が塾生の皆様にお勧めしている「学習の3段階理論」の内容ですので、開倫塾の先生から十分に指導を受けて下さい。特に、その日に学習したものは、その日のうちにノート整理をしながらもう一度すべてやり直してみることと、「3大練習」、つまり「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」は絶大な効果を発揮しますので、学力向上と希望校合格を確実に果たしたい人には是非お勧めします。

Q：最後に一言どうぞ。

A：いくらよい方法を知っても、勉強はやるかやらないかで決まります。知っていることと実際にやることは、月とスッポンほど違います。

開倫塾の最大の特長は、塾生の皆様が開倫塾で勉強する間に少しでも多く一生使える自分自身の勉強方法を身に付けて、よく生きること、人生の成功に役立てて頂きたいということです。

それが、開倫塾の教育目標の「自己学習能力の育成」です。

Q：塾長は、CRT栃木放送で「開倫塾の時間」という番組を担当しているそうですね。なぜですか。

A：開倫塾の塾生、保護者、地域社会の皆様「効果の上がる勉強方法」をお伝えし、「地域の教育力向上」のために少しでもお役に立ちたいと考えているためです。今年で21年目に入りました。

放送は、毎週土曜日の午前 9 時 15 分から 25 分までの約 10 分間です。是非、時々はお聴き頂ければ幸いです。番組の収録は、毎週月曜日の午前 9 時 30 分頃から行っています。大半は私一人でお話していますが、時々ゲストをお招きしてお話をお聴きしています。9 月 6 日からの 4 回分は、茂木敏充金融行政改革大臣をお招きしてお話をお聴きします。(茂木大臣には、10 年以上に渡って毎年 4 回は御登場頂いております。)

番組の速記録は、開倫塾のホームページの中にある「林明夫のホームページ」に掲載させて頂いております。

Q：えっ、塾長のホームページがあるのですか。

A：はい。http://www.kairin.co.jp がアドレスですが、「開倫塾」でも「林明夫」でも検索すれば一発で出てきますので、週 1 回は開いて御覧頂ければ、お役に立つ内容もあるかと思えます。私は、開倫塾の教職員に毎日のように書き続けている業務用の文章以外は、自分で書いたものの大半を「林明夫」のホームページで公開させて頂いております。最近、いろいろな方が「林明夫」のホームページをいろいろなサイトで紹介して下さっているので有難く思います。2008 年 8 月 25 日には、私の尊敬する友人の鮎谷周二^{ふなたにしゅうじ}さんが発行する「平成進化論」という 1 年 365 日毎日刊行の 32 万部という日本最高の読者を持つメールマガジンで紹介頂きましたので、皆様にお読み頂いてもお役に立つかもしれません。

- ・毎月 1 回発行されている「開倫塾ニュース」の巻頭言
- ・毎月 1 回発行されている「塾長通信」
- ・CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間」の速記録
- ・中学校、高校、教育委員会などで行った出張授業の講義資料

その他、大学や大学院での講義資料、栃木県社会教育会議等の審議会での発言内容、雑誌や新聞の依頼で書かせて頂いたコラムなどが掲載されています。

開倫塾本部事務所のスタッフの御尽力で入力し、HP でほとんど毎日のように更新、公表させて頂くに至ったものです。

この文章も、書き終わり、校正が済んだ瞬間にホームページに掲載されております。是非一度御高覧下さい。

今日も最後までお読み頂き有難うございました。感謝申し上げます。

以上

- 2008 年 8 月 27 日記 -

開倫塾自体やこの内容について御意見・御感想・御批判がある場合には、
開倫塾塾長室 e-mail:jukuchoshitu@kairin.co.jp、
FAX：0284-73-1520、TEL：0284-73-7812、
〒326-8505 足利市堀込町 145 開倫塾塾長室
まで、御遠慮なく御連絡賜りますようお願い申し上げます。

「大人の大切な一言」を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。

今朝は、来週から新学年が各小・中・高、大学、大学院、専門学校、あらゆるところで始まりますので、「親の大切な一言」、「親の一言の大切さ」をお話させていただきます。

2. 「大人の大切な一言」を考える

(1) おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、おじさん、おばさん、どなたでもいいのですが、子どもの身近にいる大人が子どもに言う「一言」が大事です。特に、新学年に「一言」子どもに声をかけるといことがいかに大事かということをお話したいと思います。逆に、大人の「一言」が子どもにマイナスの影響を与えることもあるので、注意が必要です。

(2) 例えば、最近の高校生は本当に勉強しませんね。栃木県の高校生は勉強しない。そればかりでなく、日本中の高校生は勉強しない。それでは、どこの国の高校生が勉強しているかといいますと、インドの高校生、中国の高校生、東南アジアの高校生をはじめとして、新興諸国の高校生は本当に真剣に勉強しています。彼らは何のために勉強しているか。一所懸命勉強して上の学校へ行きたい。できれば、大学、短大、専門学校とかで勉強したい。いい仕事に就きたい。そういうことを目指し、寝る時間を惜しんでまで勉強している、これがアジアの国々の高校生であります。それに比べて日本の高校生は全く勉強しない。どうしてこんなに勉強しないのかとあきれくらい勉強しないのが日本の高校生です。

(3) 理由は何か。もちろん本人の自覚も足りない。学校の先生、学習塾などの努力も足りないかもしれませぬ。ただ、もしかしたら、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの「一言」がずいぶんマイナス面で影響していることもあると、私には思い当たることがあります。

どんなことかといいますと、「とにかく高校入試までは勉強しなさい」、「高校生になったらもう自由にしてい」、「高校生になったらもう勉強しなくていいんだからね」と、家中でみんなが言っていることがあります。栃木県中の中学3年生、中学2年生、中学1年生のお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが子どもに好かれようと、こういう安易な「一言」を言ってしまった。それが原因で、高校生になって急に勉強しなくなることが非常に多いように思います。大学入試がやさしくなったこともあるのですが、親やおじいちゃん、おばあちゃんの「一言」が大きな原因と考えられることもあります。「高校生になったら自由にやればい」とか、「もう勉強しなくていい」とか、「今だけ頑張りなさい」と言われると、中学3年生は高校入試までは頑張ります。本当によく頑張ります。そんな子どもも高校に入学したらピタッと勉強しなくなるわ

けですから、皆さんにお願いしたいのは、気を引き締めていただきたいということです。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、それから、おじさん、おばさんも、ぜひ身近な子どもたちに「高校生になっても、ちゃんと勉強するんだよ」と言っていたきたい。「中学 3 年生であれば一所懸命に勉強したのだから、高校生になっても勉強するように」とか「何のために中学 3 年生で勉強したのかといえば、高校で勉強するためにではなかったのか」と言っていたきたいのです。とにかく、あきれくらい現代の日本の高校生は勉強しません。

(4)大学生も同様です。高校 3 年生でよく勉強している子どもに「大学生になったら自由に過ごせばいいんだよ」などと、親が子どもに気に入られたくてそういうことを一言でも言いますと、子どもがその「一言」を本気にします。高校 3 年生であっても、子どもは、親が子どもに気に入られようと口にした「一言」を覚えていて本気にします。その「一言」を盾(たて)にとって、「じゃあ勉強しなくていいのだ」と安易に考えることになりがちです。

(5)ですから、「高校生になったら十分に勉強するんだよ」「高校とはとにかく勉強するために行くんだからね」と言ってあげてください。また、「大学とは勉強するために行くんだよ」「きちんと勉強するようにね」と言ってあげてください。短大とか専門学校も同様です。ただ、専門学校の子は勉強しないわけにはいかないですね。厳しいですから。専門学校の子にはあまり言う必要がありません。学校で熱心すぎるくらいに言ってくれますから。ただ、短大と大学に行かれた方には、「しっかり勉強しなさい。あなたが短大、大学に行くのは勉強するために行くのだからね。気を引き締めて勉強しなさい。」と言ってあげてください。大学や短大の先生は、学生は熱心に勉強するものだと考えていますから、勉強しない学生を見てもあきれってしまうだけで、毎日のように「勉強しなさい」と言ってはくれないものです。大学は勉強する人が来るところだと思い込んでいるのが、大学の先生です。

(6)アルバイトについて一言。生活のために本当に必要ならばアルバイトはせざるを得ません。しかし、生活のためには必要がないのに、ケイタイや遊ぶお金ほしさにアルバイトをする高校生や大学生が山ほどいます。「アルバイトはしちゃいけません。生活のためならいいが、生活のためではないアルバイトはしちゃいけません。あなたの本分は勉強だから。」と高校生や大学生に言ってほしいですね。こう言わずに、親やまわりの大人が、高校生や大学生になったら「自由にやればいい」とか、生活に必要なもないのに「アルバイトをしてもいい」と言いますと、本気にしてしまいます。本当に勝手にやっちゃって、まるっきり勉強しない高校生や大学生になってしまいます。

(7)では、高校生はどのくらい勉強しないのかというと、学校以外での学習としては 70 %の子が 1 時間以上は勉強しないと言われています。全く勉強しない、つまり勉強時間が 0 分の方が半分(50 %)です。日本の高校生の 50 %は、学校以外での勉強は 0 分、つまり全く勉強しません。高校 3 年生になって、これから先大学、短大、専門学校に行こうとかいい所に就職しようと考えても、学校以外では全く勉強せずに怠けていたわけですから、高校 3 年生の 2 学期になって急に、上の学校へ行きたい、どこかに就職したいと言っても学力が足りないのではなかなか決まらず、ブラブラしてしまうわけです。ブラブラするのは、もしかしたらお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんの「一言」が大きな原因になっていることもあります。

(8) 高校時代に学校以外で全く勉強することなく、大学や短大に AO 入試などで入学したらどうなるか。高校で勉強しなかった人が、大学や短大に入って急に勉強するとは考えられませんので、「学力不足の大学生・短大生」の誕生となります。学力不足の大学生・短大生は就職のときにその実態がはっきりしてしまいますので、なかなか思うような就職先が見つからず、ニート、フリーター、引きこもりの原因となることもあります。

(9) ぜひ、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさんなど身近な方に、高校生や大学生は勉強するようにと一言いっていただけようお願いします。これが、今日私がお願いしたいことです。もちろん学校では、先生が口を酸っぱくして勉強するように言います。ただ、親やおじいちゃん、おばあちゃんのうちの誰か一人が、勉強しなくてもいいよと言いますと、子どもは、高校や大学に入ったら自由勝手にやればいい、アルバイトに精を出せばいいということになりがちです。アルバイトが必要な方はもちろんしたほうがいいですが、生活のため以外にはしないほうがいいと思います。高校生や大学生のやるべきこと、本分は勉強ですから、これはお願いします。

(10) それから、高校生や大学生になったら新聞を一日 1 時間くらいは読ませていただきたいですね。新聞には、世の中のことがたくさん書いてあります。ですから、「高校生や大学生になったら一日 1 時間は新聞を読むんだよ」と教えてあげてください。「新聞を読んで、世の中では何が起きているか考えてね」と教えてあげてください。新聞には厳しいことがたくさん書いてあります。新聞はじめマスコミの使命は、社会の watch dog(番犬)として世の中の問題点をえぐり出すことです。それを具体的に示すのが、マスコミの使命です。ですから、新聞には世の中の問題点、良くないことが本当にたくさん書いてあります。新聞を読んでよく考え、このような世の中は良くないから良い世の中にしようと考えていただきたく思います。新聞には、健康についてもたくさん書いてあります。良い状態を維持するにはどうしたらよいか山ほど書いてあります。高校生や大学生の中には、思慮が足らずに「とにかく痩せればいい。そのためには物を食べない。」などと偏った考えを持つ人もいます。栄養のバランスは心のバランスとともに大切だということが新聞にはたくさん書いてありますので、とても参考になります。

高校生や大学生になったら新聞を 1 時間くらい読んで考えるようにと、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが言ってあげてください。

3. おわりに

身近な大人が言わない限り、勉強しないし、新聞も読まない子どもが激増しています。勉強しない限り学力は身に付きません。学力不足の高校生や大学生は、将来が本当に心配です。ぜひ大人は、身近な子どもたちに不足しているところを、言い方を考えて少しずつ指導してあげてください。

- 2008 年 8 月 28 日加筆 -